

可豆思賀能 麻萬能手兒奈我 安里之可婆 麻末乃於須比専 奈美毛登杼呂専	万葉集 卷十四 3,385
勝鹿の 真間の手兒奈が ありしかば 真間のおすひに 波もとどろに	作者未詳
かつしかの ままのてこなが ありしかば ままのおすひに なみもとどろに	
葛飾の 真間の手兒奈が いたから 真間の磯辺に 波まで打ち寄せていたんだ	

豆知識

(本歌の表記は、1字1字が対応する非略体歌。)

(おすひは汚水ではなく、磯辺(いそへ⇒いそへ)の方言。当時の東国の方言が分かる一級資料である。)

<https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/>